

---

# きっとハレの日、ケの昨日

しかし咲夜派

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

きつとハレの日、ケの昨日

### 【コード】

N1906W

### 【作者名】

しかし咲夜派

### 【あらすじ】

風神録から数ヶ月後くらいの早苗さんのお話。超短編。

夢を見た。

それは酷く臃気で、儂くて、はっきりしない物だったけれど、確かに夢を見た。

この頃どうにかこっちでの生活にも慣れてきて、まだ両手の指で数えられる程だけど、友人と呼べるような存在も出来た。

その人達は酷く奔放で、人の気なんて何のその。日本人的な常識からすれば、空気の読めない“非常識”な人達だ。

だけど彼女達はその分快活で、とても気安く心地良い関係を持てた。

最近、自分が彼女達に毒されてきている気もしないでもないが、それも仕方ない。

これからはこっちの常識に馴染まなければならぬのだから。ずっと元のままでは居られないだろう。

だけど

気付けば、頬に一縷の涙が流れていた。

慌ててそれを手のひらで拭うが、目からは次から次へと涙が溢れ出てくる。

止まらない、止められない。

今まで溜め込んでいた感情が、堰を切ったように頭の中で奔出する。

不安だった、怖かった、寂しかった。

生まれた土地を世界を離れる事が。

妖怪が跋扈する新たな世界で生きていく事が。

そして何より、全ての知り合い、友人達と二度と会えなくなる事が。

昔馴染みの親友はここには居ない。

妹の様に可愛がっていた年下の女の子も。

緑の髪を綺麗だと言ってくれた同級生も。

事ある毎に相談に乗ってくれた年上の人も。

みんな、もう居ない。

いくら涙を流しても、体を震わせても。慰めて、止めてくれた友人達は、もう居ないから。

止まらない、止められない。

「早苗」

あたたかい。

「じゅめんね、早苗。まだ言ってなかったね」

二つの温もりが体を包む。

随分と長い間、この温もりを感じていなかった気がする。

「当たり前だよ。早苗は寂しいに決まってるよね」

涙は、止まっていた。

体は、少し震えている。

諏訪子様の抱いてくれている力が強まる。

「もしかしたら早苗は私達を恨んでいるかも知れないけど、これだけは言わせて」

違う、恨んでなんかいない。

だって自分で決めた道だから。

そう言おうとして開いた唇に、神奈子様の人差し指が触れる。

「私達に付いて来てくれて、ありがとう」

振り返れば、二人の笑顔。

「私達を信じてくれて、ありがとう」

体の震えは収まっていた。

涙は、流れていた。

暫くの間、部屋には泣き声だけが木霊した。

「……落ち着いた？」

下を向いたまま、一度頷く。

「そっか。ほら、せつかくの可愛い顔が台無しだよ。顔を洗っておいで」

神奈子様が頭を撫でてくれる。

諏訪子様が早く早くと背中を押す。

部屋から出て、洗面所に向かって廊下を歩く途中、ふと空を見上げる。

空は一面が曇に覆われていた。

昨日まで雨が降っていたし、その名残だろうか。

当然ながら、ここには天気予報なんて便利な物は無い。

人里には河童が造った天気予報装置があるらしいが、的中率が高くない上に、わざわざ山を降りなければならぬ。

そもそもそんな物が無くても普通に生活は出来ているので、案外どうにでもなるんだなあと思う。

そんな事より、早く顔を洗って朝ご飯作らないと。

美味しそうにご飯を食べる二人の姿を思い浮かべると、思わず顔が弛む。

春風が髪を躍らせ、頬を撫でる。

今日は溜まった洗濯物でも干そうかな。

雲の合間から差す光を見ながら、そう思った。

(後書き)

かかか、かっぱえび んちやうわ!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1906w/>

---

きっとハレの日、ケの昨日

2011年10月9日14時42分発行